

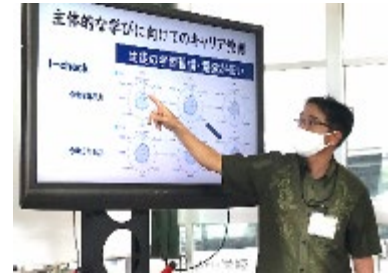
| | |
|--------------------------------|---|
| 団体名 糸満市立西崎中学校 | 連絡先 TEL : 098-994-3050 Eメール : nishicyu@nishizakic.city.itoman.okinawa.jp |
|--------------------------------|---|

1 実践事項 「教師目線の“主体的・対話的で深い学び”による授業改善」

2 実践内容

(1) 主体的：職員一人ひとりが自分事として授業改善に臨む

- ① P・PⅡを活用した日々の授業改善と教科会の充実
- ② 道徳ローテーション授業
- ③ 一人1回の公開授業と授業研究会の実施
- ④ 各種研修の実施



↑校長先生によるキャリア教育講話

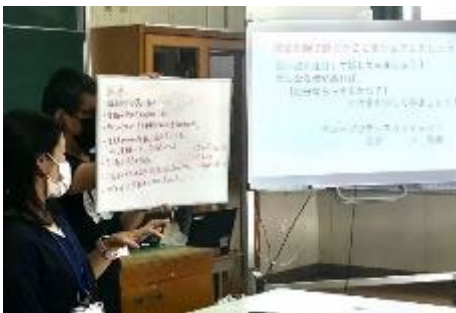
(2) 対話的：同僚性をいかし、職員間の繋がりを大切にする

- ① 職員間の対話を重視：授業づくりや学級経営等を話し合いながら進める。
- ② 研修便りの発行：毎日発行。職員の取り組みや生徒の様子、各種施策等の紹介を行う。
- ③ 研修コーナーの充実：授業の振り返りや公開授業の様子、各種資料を掲示。

(3) 深い学び：より良い西崎中にしていくために

- ① 学校評価ルーブリック等の活用：年度当初に確認。前期終了後、管理職を含め全体で見直し、後期へ繋げる。年度末には再度見直し次年度へ。
- ② 小学校との連携：小学校の授業をオンデマンドで視聴。小学校の取り組みを共有し、質問は再度小学校へ問い合わせる。
- ③ 支持的風土を土台とした、生徒主体の学校づくりの推進：感謝を伝えるハッピーカードの活用や放課後の自主学習ブラッシュアップタイム等の充実を図る。

3 説明資料



↑全体での協議（学校改善ルーブリックや小学校の授業参観後など）



↑美術科・体育科はタブレットで評価を行い、適宜生徒へフィードバック
 研修たよりー



4 成果と課題

- 子どもの学ぶ姿をイメージした授業づくりを行うことで、重点目標である質的授業改善に取り組めた。
- 支持的風土が醸成され、教師主体から生徒主体の授業へ転換が図れてきた。生徒のアウトプットの機会も増え、アクティブに学ぶ姿が多く見られた。
- 職員で支え合う体制を構築し、オンライン授業等で円滑な授業を行うことができた。
- △授業の内容によっては、教師が話すすぎることや教えすぎることもある。